

神の民の二つの悪事と

神は彼のエコノミーを完成することにおいて信実であること

聖書：エレミヤ 2:13．詩 36:8-9．ヨハネ 4:10, 14．7:37-39．

I コリント 10:4, 12:13

- I. エレミヤ書は、イスラエルの罪と、神の激怒、懲らしめ、刑罰についての語りかけに満ちた書であり、神のエコノミーにおける彼の意図が、生ける水の源泉、源となって、彼ご自身を彼の選ばれた民の中へと分与して、彼らの満足と享受になることであるということを啓示しています。この享受の目標は、召会、神の配偶者を生み出して、それを神の増し加わり、神の拡大とし、神の豊満とならせて、彼を表現することです。神聖な啓示の核とは、神がわたしたちを創造し、贖ったのは、彼ご自身をわたしたちの中へと造り込んで、わたしたちの命またすべてとなるためであるということです——エレミヤ 2:13．詩 36:8-9．ヨハネ 3:29-30．4:10, 14．7:37-39．啓 7:17．エペソ 3:16-19：
- A. 生ける、霊の岩としてのキリストは神の律法の権威によって打たれました。それは命の水が復活の中で彼から流れ出るためであり、また彼の贖われた民の中へと流れ込んで彼らが飲むためでした——出 17:6．I コリント 10:4。
- B. わたしたちが復活の中で一つ霊から飲むことは、わたしたちをからだの肢体とし、わたしたちをからだとして建造し、またわたしたちを整えてキリストの花嫁となさせます——I コリント 12:13．啓 22:17。
- II. 「わたしの民は二つの悪事を犯した……彼らはわたし、この生ける水の源泉を捨てて、自分たちのために水ため、水をためることがない壊れた水ためを掘ったのだ」——エレミヤ 2:13：
- A. イスラエルは生ける水の源泉としての神から飲んで、神の表現としての増し加わりとなるべきでしたが、彼らはかえって二つの悪事を犯しました：
1. 彼らは彼らの源泉、源としての神を捨てて、神以外の源に転向しました。この二つの悪事はエレミヤ書全体を支配しています。
 2. 水ためを掘ることは、イスラエルが人の労苦によって苦しみ、何か(偶像)を作って神を置き換えることを描写しています。
 3. 水ためが壊れて水をためることができないことが示しているのは、生ける水としてわたしたちの中へと分与された神ご自身を離れて、何もわたしたちの渴きをいやすことも、わたしたちを神の増し加わりとならせて彼を表現させることもできないということです——ヨハネ 4:13-14。
- B. 神の目に、悪しき者、悪を行なう者は、来て彼から飲むことをしない者で

エレミヤ書と哀歌
メッセージ 3 (続き)

す(イザヤ 55:7)。悪しき者どもの邪悪な状態は、彼らが主に来て主を食べ、飲み、享受しないことです。彼らは多くの事を行ないませんが、来て主に触れ、彼を取り、彼を受け、彼を味わい、彼を享受することをしません。神の目に、これほど邪悪なことはありません(57:20-21. 参照、55:1-2)。

C. 神の意図は、ご自身を人の中へと分与して、人の満足となり、神を拡大することでした。しかし、人は不忠実になり、不貞になり、神を捨てて、偶像に向きを変えました：

1. わたしたちの心の中の偶像とは(エゼキエル 14:3)、わたしたちが自分の内側で主以上に愛し、大切にすすべてのもの、またわたしたちの生活の中で主に置き換わるすべてのものです(Iヨハネ 5:21)：
 - a. 偶像を心の中に抱いている人は、偶像を通して主から離されています(エゼキエル 14:5)。
 - b. 自分の内側に偶像を持つ者はみな、外側で神を捜し求めても、神を見いだすことはできません(エゼキエル 14:3. 参照、エレミヤ 29:13)。
2. イスラエルは偶像を拝むことによって、自らをむなしいもの、無としました。彼らは自分たちの町の数ほど、多くの偶像を持っていました(エレミヤ 2:5, 28. 11:13)。イスラエルは彼らの神(彼らの栄光)の実際を、偶像の虚無と取り替えました(2:11. 詩 106:20. ローマ 1:23)。
3. 背信とは、神の道を離れ、別の道を取って、神以外のものに従うという事柄です。背信とは、神を捨て、偶像へと向きを変えることです——エレミヤ 2:19。
4. イスラエルがバビロン人に捕らえられたとき、神の民はまだ彼らの偶像を放棄しておらず、それらを良き地からバビロンに運ばなければなりませんでした。神に置き換わるものや、神の地位を占有するものは何であれ、偶像であり、礼拝する者にとって重荷となります——イザヤ 46:1。
5. もの言わぬ、声のない偶像は(Iコリント 12:2. ハバクク 2:18-20)、それらを拝む者たちをもの言わぬ、声のない者とします。ところが、生ける神は、ご自身を礼拝する者たちをご自身の霊の中で語らせます(Iコリント 12:3 後半. 詩 115:4-8. IIコリント 4:13. 詩 116:12-13)：
 - a. 神を礼拝する者はだれも、黙っているべきではありません。みな声を出して、神の霊の中で、「主イエス!」と語り出すべきです。
 - b. このように「主イエス」と語ることは、すべての霊的賜物の中で主要な機能です。正しい霊で主の御名を呼び求めることは、聖霊にあずかり、聖霊を享受し、経験する方法です——Iコリント 12:3 後半. 参照、

ローマ 14:17。

c. 「死人たち、また静寂へと下って行く者たちは、エホバを賛美することはない。しかし、わたしたちは今より永遠まで、エホバをほめたたえる。ハレルヤ」——詩 115:17-18。

6. わたしたちが所有しているものは何であれ、さらにはわたしたちであるものは何であれ、偶像になり得ます。イスラエルは神を捨て、偶像に向きを変え、神に対して邪悪で、不忠信でした。神に対してこのように不忠信であることにおいて、わたしたちはイスラエルと同じです。

Ⅲ. わたしたちは、神が彼のエコノミーを完成することにおいて信実であることを見る必要があります——参照、詩 37:3 :

A. わたしたちは不信実であっても、神は信実です(哀 3:23 後半)。よく知られている詩歌(詩歌 13 番)のおりかえしは言います、「あなたの信実は大です！ あなたの信実は無辺です！ あなたのあわれみは朝ごとに新鮮です。わたしが必要とするすべてはあなたが供給され、あなたの信実は極めて大で無辺です！」(全訳) :

1. わたしたちは神の信実について、聖書が言っていることとこの詩歌が言っていることを、天然の方法か霊的な方法のいずれかで理解するでしょう。
2. わたしたちが神の信実を天然の方法で理解するなら、わたしたちは神が信実であるのはおもに物質の備えか物質の祝福の事柄においてであると思うかもしれません。しかし、神の信実是我たちの天然の理解にしたがったものではありません。Ⅰコリント第1章9節は、神が信実であるのは、わたしたちを彼の御子の交わりへと召すことにおいてであると言っていますが、わたしたちの天然の理解では、神はわたしたちの福利を顧みることにおいて信実であるように見えないかもしれません。
3. 「使徒パウロの苦難を考えてみてください。彼は神によって召され、委託され、負担を受け、遣わされましたが、どこへ行っても問題に遭いました。例えば、彼はキリストを宣べ伝え始めると直ちに、迫害を受け始めました。彼はかごで城壁づたいに吊り下ろされることによってさえ、ダマスコから逃げなければなりません。これは、神がパウロにとって信実でなかったことを意味するのでしょうか？ いいえ、それは、神の信実がわたしたちの天然の理解にしたがっていないことを意味します」(エレミヤ書ライフスタディ、第4編)——使徒 9:15-16, 23-25. Ⅱコリント 11:30-33. コロサイ 1:24. Ⅱコリント 1:5. ペリピ 3:10. 啓 1:9. Ⅱテモテ 2:10. 3:12。

4. わたしたちは主イエスの中へと信じた時、外側の平安と祝福を持つことを期待したかもしれませんが。しかしかえって多くの問題があり、わたしたちの安全、健康、財産を失ったかもしれません。あるクリスチャンはそのような事を経験するとき、神の信実を疑い、なぜ彼は困難が起こらないようにしてくださらなかったのかと尋ねるかもしれません——使徒 14:22. I テサロニケ 3:2-5。
 5. 神がわたしたちに困難があるのを許すとき、神は彼の定められた御旨において信実であって、わたしたちを偶像から向きを変えさせ、彼ご自身に連れ戻すことを、わたしたちは認識する必要があります。わたしたちの平安、安全、健康、財産は、わたしたちの偶像になるかもしれません。しかし、神は信実であって、これらのものを取り去り、わたしたちが生ける水の源泉としての彼から飲むようにされます。
 6. 例えば、もしわたしたちの家や財産がわたしたちの偶像になるなら、わたしたちはそれらから飲んでいるのであって、神から飲んでいません。神の信実は、これらの偶像を対処し、わたしたちに彼から飲ませるようにするという事柄です——詩 36:8。
 7. 神は信実であって、わたしたちを神のエコノミーの中へと導きます(I コリント 1:9. I テサロニケ 5:23-24)。神のエコノミーとは、わたしたちがキリストを飲み、キリストを食べ、キリストを享受し、キリストを吸収し、キリストを消化して、神がわたしたちにおいて彼の増し加わりを得て、彼のエコノミーを完成することです。
 8. わたしたちは、自分がイスラエルより良くないことを見る必要があります。どんなものでも、わたしたちの偶像になり得るのです。しかし、神は彼のエコノミーを完成することにおいて信実です。神は彼の信実の中でわたしたちの偶像を対処し、わたしたちに彼から飲ませます。わたしたちはみな生ける水の源泉としての神から飲み、キリストをわたしたちの中へと受け入れ、キリストを消化する必要があります。それは、キリストが増し加わって神のエコノミーを完成し、彼の配偶者としてのわたしたちを通して彼の表現を持つためです——ヨハネ 3:29-30。
- B. もしわたしたちが神に対して忠信でなかったことを認識するなら、悔い改め、泣くかもしれませんが、その後わたしたちは生ける水から飲み始め、神を賛美し、あらゆる事で神に感謝し、神を享受すべきです(I テサロニケ 5:16-18)。これが、神が欲しておられることです。神は、わたしたちがキリストを享受すること以外に何も関心がありません：

1. わたしたちは、自分の失敗のゆえに、望みがないと思うかもしれませんが。確かに、イスラエルの民は、神が自分たちを放棄し、自分たちはおしまいであると感じたに違いありません。しかし、神のあわれみは尽きることがありません。それらはむしろ、朝ごとに新しいのです——哀 3:22-23。
2. エレミヤは、「エホバはわたしの分け前です……わたしは彼[エホバ]を待ち望む。エホバは彼を待ち望む者……に対してすばらしく善い」からであると声明することさえできました。神の中に望みがあるのは、神には失望がないからです——哀 3:24-25. 参照、詩 16:5. 73:25-26。
3. わたしたちの失敗は、キリストのために道を開いて、彼が入って来てわたしたちの義また贖いとなり、またご自身をわたしたちの中へと分与して、わたしたちの命となり、また神を知り神を生きる能力を持つ命の法則とならせます。言い換えると、わたしたちの失敗は、キリストのために道を開いて、彼が入って来て、わたしたちの中で、またわたしたちを通して高く上げられ、わたしたちの中心性と普遍性になるようにさせるのです——エレミヤ 23:5-6. 31:33-34. コロサイ 1:17 後半, 18 後半。
4. わたしたちが今日、神に対して失敗しても、失望すべきではありません。神にはわたしたちを対処し、わたしたちを円熟させ、新エルサレムとならせる道があります。それは次の時代における彼の勝利を得た花嫁としてであるか、あるいは永遠における彼の妻としてであるかのどちらかです——ヘブル 6:1 前半。
5. わたしたちは自分の状態について何も心配する必要はありません。神は忍耐強く、同情し、あわれみ深く、時間をかけてわたしたちを円熟させてくださいます：
 - a. あらゆる信者は、現在は弱くても強くても、新エルサレムの構成要素となり、みなそこにおいて円熟します——啓 19:7-9. 21:2。
 - b. ですから、わたしたちは落胆したり、失望したりすべきではありません。そうではなく、わたしたちはすべての慰めと励ましの神をもって励まされ、慰められるべきです——Ⅱコリント 1:3-4. ローマ 15:5。
 - c. 神は生ける水の源泉です。わたしたちは神を飲むことによって、神の真の礼拝者となるべきです。それは、神がわたしたちの内側の実際となり、最終的にはわたしたちの真実と誠実となり、その中で、わたしたちは神の求めている礼拝をもって神を礼拝します——ヨハネ 4:23-24。